

PCB 処理だより

第42回PCB処理監視会議を開催

令和元年7月29日(月)に、若松市民会館において「第42回北九州市PCB処理監視会議」を開催しました。午前中は、監視会議委員による北九州PCB処理事業所内の立ち入りを行い、第1期施設の解体・撤去先行工事の状況等を確認しました。午後からは会議を行い、監視会議委員15名のほか、JESCO・国・本市など北九州PCB処理事業に携わる関係者が出席しました。

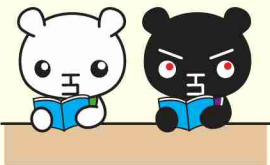
1 北九州PCB廃棄物処理施設の操業状況等



■ PCB廃棄物処理の進捗状況(平成16年度～令和元年6月末)

JESCOより、令和元年6月末までのPCB廃棄物の受入・処理状況等について報告がありました。

北九州事業エリアの「変圧器・コンデンサー」は、計画通り、平成31年3月31日に処理が完了しました。令和3年度末に処理期限を迎える「安定器及び汚染物等」については、北九州事業エリア分は97.3%、豊田事業エリア分は46.3%、大阪事業エリア分は35.5%の進捗となっております。



監視会議の様子

項 目	事業エリア	北九州事業エリア	拡大受入分		
			東京事業エリア	豊田事業エリア(変圧器=車載)	大阪事業エリア
変圧器 処理期限: 平成31年3月31日 (処理完了)	処理台数①	2,703台	—	98台	—
	登録台数② (処理対象台数)	2,703台	—	98台	—
	処理率①/②	100%	—	100%	—
コンデンサー 処理期限: 平成31年3月31日 (処理完了)	処理台数①	52,025台	6,925台	—	—
	登録台数② (処理対象台数)	52,025台	6,925台	—	—
	処理率①/②	100%	100%	—	—
安定器及び汚染物等 処理期限: 令和4年3月31日	処理重量①	3,193t	—	1,179t	1,151t
	登録重量② (処理対象台数)	3,280t	—	2,549t	3,246t
	処理率①/②	97.3%	—	46.3%	35.5%

(注) 処理重量①及び登録重量②は缶重量を含む。

■ 環境モニタリングの結果

平成30年度「冬季」、令和元年度「春季」に実施した環境モニタリング測定の結果は、全ての項目において環境基準等に適合していました。

JESCO及び北九州市は、PCB廃棄物処理事業による環境への影響を把握するため、周辺環境及び排出源において、定期的に環境モニタリングを実施しています。



排ガス測定の様子



2 北九州PCB処理事業所第1期施設の解体撤去の状況等

北九州PCB処理事業所第1期施設は処理対象物(変圧器・コンデンサー)の完了に伴い、操業を停止し、令和元年6月17日から解体撤去に向けた先行工事に着手しています。現在、先行工事対象設備内の機器を撤去しています。本市においては、工事着手後、立入検査を実施し、安全性が確保されていること、計画どおりに進捗していることを確認しています。

(1) 作業の進捗状況

先行工事対象設備(グローブボックス)内の機器の解体撤去に着手(令和元年6月17日)。現在、設備内のPCB状況調査、付着しているPCBの低減作業を行っており計画どおり進捗。

(2) 周辺環境への配慮

作業中に対象設備からPCBが漏洩しないようにグリーンハウスを設置するなどの対策を講じている。また、オンラインモニタリングや近接場所の排気測定も実施し、基準値以下であることを確認。

(3) 作業者の安全衛生管理

作業者の入構時の安全教育をはじめ、保護具等の着用の徹底を行うとともに、作業場所の環境測定を実施して基準値以下であることを確認。

(4) 地元への情報提供

解体撤去の進捗状況を地元住民に対してきめ細かく情報を提供していくため、説明会や見学会を開催するとともに、北九州PCB廃棄物処理事業だよりの臨時版発行や事業所内に解体撤去情報コーナーを設置。



先行工事の様子



解体撤去情報コーナー

3 国による北九州PCB廃棄物処理事業の中間総括

この中間総括は、平成25年に国から「北九州PCB処理事業の延長・拡大」を受け入れる際の受入条件の一つとして、国は平成30年度を目途に事業の中間総括を行い、本市に報告することを約束しており、今回報告を受けたものです。

■ 事業の安全性について

JESCO、国、本市の三者がそれぞれの立場から連携して安全対策に取り組んでおり、北九州事業所のトラブル発生件数は全国5ヶ所の事業所（北海道、東京、豊田、大阪、北九州）の中で最も低い水準となっています。

■ 期限内処理について

自治体による安定器・汚染物等の掘り起こし調査の進捗により、処理対象量が増加しています。現時点で北九州事業エリアのものについては計画どおり期限内に処理が完了する見込みですが、新たに処理が追加された大阪及び豊田事業エリアのものについては参考値ですが、令和3年度末に249t残る可能性があります。

【国の対応】

- 現在、安定器及び汚染物等の期限内の一日でも早い処理完了に向けて、以下の処理促進策に取り組んでいます。



これまでに講じた処理促進策

● 安定器の仕分け

「非PCB安定器の分別」等について、保管事業者に徹底を要請するとともに、PCB処理事業所においても実施



分別作業の様子

● 小型電気機器の真空加熱分離装置による処理

3kg未満の小型電気機器のうち、塩化ビニルで被覆されているものを除き、真空加熱分離装置での処理を実施

今後、追加的に講じる処理促進策

● 安定器の分離処理

安定器をPCB含有のコンデンサー内蔵部と、それ以外のトランス内蔵部に分離し、トランス内蔵部はプラズマ溶融分解以外の処理方法で処理することを検討中



● 汚染物の無害化処理認定施設での処理

感圧紙等のPCB汚染物(PCB濃度0.5%~10%程度)について、環境大臣の無害化処理認定施設での焼却処理を検討中

● その他の追加的な処理

プラズマ溶融炉への投入間隔の短縮、1回当たりの投入量の増量等を検討中

- 今後も、制度改正などあらゆる措置を講じて、「令和3年度末までに、かつ、その期間内で一日でも早く処理完了させることを旨として、関係者が総力を挙げて早期に処理を行うべく全力で地元との約束を果たしていく」と表明されました。



本市においては国、JESCOに対して、引き続き安全性確保に万全を期すこと、及び北九州PCB処理事業所の更なる処理能力の向上を要請し、あらゆる手段を尽くして地元との約束である期限内処理を実行するよう要請して参ります。

トピックス

トピックス1

「第8回西日本広域協議会」開催

令和元年7月30日(火)、アジア太平洋インポートマート(AIM)会議室において「第8回西日本広域協議会」が開催されました。



関係自治体における早期処理に向けた取組内容や進捗状況を共有し、本市からは期限内の確実な処理完了に向けた取組みの徹底を要請しました。

トピックス2

本市が安定器及び汚染物の早期処理に向けて関係の72自治体を個別訪問

現在、本市では、安定器・汚染物等の受け入れを行っている72自治体を順次、個別訪問して、各自治体の取組状況を把握するとともに、本市の知見や経験を水平展開し、期限内での確実な処理に向けた取組みを要請しています。

トピックス3

日本全国のPCB廃棄物早期処理促進を図るため、本市の取組みを他事業エリアへ展開

青森県から要請があり、令和元年7月26日(金)に開催された「PCB廃棄物等の期限内処理に係る青森県市町村説明会」で本市のこれまでの取組みや北九州事業エリアの事例を発表してきました。参加者からは「全国で初めて変圧器・コンデンサーの処理を完了した北九州事業エリアの知見を生かし、青森県においても期限内での確実な処理に向けて取組みを行っていきたい」等の意見が寄せられました。



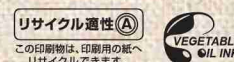
発行元

PCB News vol.42

環境局環境監視部環境監視課

〒803-8501 北九州市小倉北区城内1番1号 TEL: 093-582-2175 FAX: 093-582-2196
メールアドレス: kan-kanshi@city.kitakyushu.lg.jp

※ PCB処理の進捗など、地域の集会等に市の職員が出向いて、説明を行います。
ご希望の方やPCB処理だよりについて感想やご意見がございましたら、上記までご連絡ください。
※ この事業について、詳しくは専用ホームページ(<http://www.waste-info.jp/pcb/>)で!!



本紙は古紙パルプを含む再生紙を使用しています。 令和元年9月 No.1912031F